



あきた型学校評価システムに基づく「学校評価」について (2)

前号では「学校経営」の学校評価シートを、今回は「学習指導」についてお伝えします。

重点目標	授業改善を推進し、意欲と学力の定着を図る。
-------------	-----------------------

現 状	<p>令和2年度県学習状況調査では、全ての学年・教科において県平均を下回っている。県との差が大きい教科も見られる。</p> <p>質問紙の「勉強が好き」は、県を上回っている学年とそうでない学年の差が大きくなっている。「勉強がよくわかる」では、どの学年も県との差はほとんどないが、実態と合っていない状況にある。「読書が好き」「図書館に行く回数」は、県より上回っている。「読んだ冊数」は、県とほぼ同じくらいである。「家庭学習の時間」では、県よりやや少なく、土日も平日とほぼ同じくらいの時間の児童が多い。</p>	<table border="1"> <caption>【R2 県学習状況調査平均通過率】</caption> <tr> <td>4年生</td> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>算数</td> <td>理科</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>県</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>県</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>県</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	4年生	国語	社会	算数	理科	本校					県					5年生					本校					県					6年生					本校					県					P 目標設定・計画
4年生	国語	社会	算数	理科																																												
本校																																																
県																																																
5年生																																																
本校																																																
県																																																
6年生																																																
本校																																																
県																																																

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の三機能を生かした授業づくりを日常的に実践する。 県学習状況調査質問紙において、「勉強が好き」「勉強がわかる」の項目について、各学年とも県平均程度となるよう授業改善に取り組む。 県学習状況調査において、各教科の正答率が県との差を5～10ポイント縮める、県平均程度の教科を増やす。
---------------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい人間関係を基盤とした学習集団の育成 「生徒指導の三機能」を生かし、「分かった」「できた」「役に立つ・使えそう」の実感を一人一人にもたせるための授業づくり(共通理解・共通実践) 読書活動の推進とともに、「話すこと」「聞くこと」「語彙を豊かにすること」との関連を図った授業づくり 基礎・基本の確実な定着のために、一層の家庭学習の習慣付けと内容の充実(家庭学習手引きの活用、定期的なノート展示、個別指導、東由利中との連携、全校テストの活用、家庭の協力など) 算数、理科等の単元評価問題を授業中により効果的に取り入れ、定着の確認と解決方法の理解
-------------------	--

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 学習の約束や学び方を身に付けるとともに、互いのよさを認め合う温かい学級集団の育成に努めた。 「分かった」「できた」「役に立つ・使えそう」の実感を一人一人にもたせるための授業づくりについて、研究主任の提案授業を下に、共通理解することができ、実践に生かせるようにした。 6年算数では、きめ細かな指導ができるようにTTで支援を行った。 基礎・基本の定着のために、一層の家庭学習の習慣付けを図った。(家庭学習手引きの活用、定期的なノート展示、個別指導、全校テストの活用、家庭への協力依頼など) 単元評価問題(算数・理科)の活用を図り、定着の確認と補充指導につなげた。 	D 実践
-----------------	---	---------

達成状況	<p>県学習状況調査の各教科の平均通過率は、4年生は3教科全てで県平均を上回った。5年生は、国語が県平均を下回ったが、それ以外の教科は上回った。6年生は、全ての教科が下回ったが、国語と理科は5年生の時よりも県との差を大きく縮めた。逆に社会は差が8ポイント開いた。3学年全体で11教科中6教科が県平均を上回った。</p> <p>質問紙の「勉強が好き」の項目は、4年生94.1% (県比+3.9)、5年生100% (県比+25.2)、6年生54.2% (県比-19.0)となっている。4・5年生はプラスとなっているが、6年生は県との差が大きい。「勉強がよくわかる」では、4年生100% (県比+8.2)、5年生100% (県比+7.6)、6年生91.6% (県比+2.3)となっており、県との差はほとんどない状況にある。6年については、5年生の時と同様に勉強がよく分かると答えているが、数値として表れていない状況にある。</p>	<table border="1"> <caption>【R3 県学習状況調査平均通過率】</caption> <tr> <td>4年生</td> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>算数</td> <td>理科</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>県</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>県</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>県</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	4年生	国語	社会	算数	理科	本校					県					5年生					本校					県					6年生					本校					県				
4年生	国語	社会	算数	理科																																											
本校																																															
県																																															
5年生																																															
本校																																															
県																																															
6年生																																															
本校																																															
県																																															

自己評価	(評価) B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き学習規律の徹底と互いのよさを認め合う温かい学級集団の育成に努めてきたこと、また「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを日常的に実践したことで、意欲的な学習態度で授業に臨む姿が見られた。 ・県学習状況調査において、昨年度は全ての学年、教科で県平均を下回っていたが、学年差はあるものの11教科中6教科で県平均を上回ることができた。県との差が昨年より開いてしまった教科もあったが、全体的に見ると概ね目標を達成できた。 ・質問紙の「勉強が好き」の項目は、4・5年生は県平均を上回っているが、6年生は県との差(-19)と大きく、苦手意識をもっている。6年生に対しては、特にきめ細かな配慮が必要だったと反省しなければならない。しかし、「勉強がよく分かる」では、県平均とほぼ同じである。分かったつもりで終わらせないで、定着させる手立てをとると同時に、学級や個の実態に応じた支援を工夫していく必要がある。 	C 評価
------	-----------	--	---------

↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に取り組んできた状況の学習調査結果や保護者アンケートの結果を単なる報告とせず、小規模校・小地域ならではのメリット・デメリットとリンクさせ、よいところをほめ、苦手な所などをもっと地域の特徴と照らした説明があればよいと感じた。 ・子ども同士の学び合いの中で、心を育てながら行う授業形態は、考える力を身に付ける上で理想的と思う。ただ人数が少なく、一人一人に目が行き届く反面、子どもたちの競争意識が芽生えず皆仲間でライバルが存在しないという側面も否定できないので、手立てを講じ成長を促すことも必要と思う。 ・県学習状況調査では、全体的に改善は見られたものの6年生は昨年とほとんど変わらず残念である。特に算数ではTT授業が行われているにもかかわらず改善されないのは、つまずきがあるのではないかと思ってしまう。是非個々の状態を把握し、家庭とも連携しながら取り組んでいきたい。 ・授業がよくわかり、結果にも結び付き、自ら意欲的に学習に取り組める子どもが一人でも多く出してほしいと願っている。 ・6年生については、基本的な復習を重ねて経験値をあげることが一番の近道と考える。そのためには、その教科に興味をもてるか否かが重要になると思われる。中学校で具体的な目標が芽生える年齢になるので期待したい。 	C 評価
------------	-----------	--	---------

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の基盤となる、学習規律の徹底と互いのよさを認め合う温かい学習集団の育成に努める。 ・生徒指導の機能を生かした授業づくりを一層推進し、授業中に子どもが活躍する場を多く設定していくことで、自己肯定感、自己有用感を高めていく。 ・付けたい力を明確にし、個の実態に応じた支援を通して、「分かった」「できた」を実感させることで、より一層学びに向かう力を高める。 ・基礎・基本の確実な定着のため、家庭学習ノート展示の定期的な実施や全校テストと関連させ、家庭の協力も仰ぎながら家庭学習の充実を図る。 ・児童の学習状況を分析、整理し、全職員で共通理解のもと、弱点を克服するために共通実践を行う。 	A 改善策
-----------------------	--	----------

学校運営協議会委員の皆様からのご意見・ご助言を真摯に受け止め、2022年度の学校経営にいかしていきたいと思っております。

読み聞かせグループ「つばさ」の皆様、ありがとうございました。

3年 岩谷小とオンラインでの学習

3/2が今年度最終の読み聞かせとなりました。1～3年生は各教室で、お礼の手紙を書きました。「つばさ」の皆様、どうもありがとうございました。来年度もよろしくお願いたします。



3/2 総合的な学習の時間に岩谷小との交流学習がありました。お互いの地域の自慢をzoomを使ってオンラインで行いました。東由利小は「東由利じまんカルタ」をつくって、分かりやすく伝えることができました。

